

## 令和4年度第1回川崎市子ども・子育て会議全体会議 摘録

### ■ 開催日時

令和5年3月20日（月）19時00分～

### ■ 開催場所

川崎市役所第3庁舎15階第1～3会議室

### ■ 出席者

#### (1) 委員出席者

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| ●公募委員                             | 青木 千恵氏  |
| ●公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長              | 石井 宏之氏  |
| ●和光大学 副学長／現代人間学部 教授               | 一瀬 早百合氏 |
| ●川崎地域連合 副議長                       |         |
| 富士通労働組合プロダクトグループ サブグループ長          | 稲富 正行氏  |
| ●川崎西部地域療育センター 地域支援課長              | 大野 伸之氏  |
| ●社会福祉法人川崎市社会福祉協議会<br>施設部会保育協議会 会長 | 奥村 尚三氏  |
| ●NPO法人子育て支えあいネットワーク満 理事           | 河村 麻莉子氏 |
| ●川崎市民生委員児童委員協議会 会長                | 今 富子氏   |
| ●学校法人鷗友学園 特別顧問                    | 柴田 頼子氏  |
| ●公益社団法人川崎市幼稚園協会 会長                | 鈴木 伸司氏  |
| ●NPO法グローイン・グランマ 代表                | 関 和子氏   |
| ●公益社団法人川崎市医師会 副会長                 | 関口 博仁氏  |
| ●田園調布学園大学みらいこども園 顧問               | 長南 康子氏  |
| ●洗足こども短期大学幼児教育保育課 教授              | 坪井 葉子氏  |
| ●川崎市青少年指導員連絡協議会 理事                | 豊島 このみ氏 |
| ●田園調布学園大学学部長<br>人間福祉学部社会福祉学科 教授   | 村井 祐一氏  |
| ●川崎商工会議所 顧問                       | 中山 伸一氏  |

#### (2) 行政所管課・事務局

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ●こども未来局総務部長       | 田中 眞一 |
| ●こども未来局総務部企画課長    | 北川 直子 |
| ●こども未来局総務部企画課課長補佐 | 浅水 和宏 |
| ●こども未来局総務部企画課職員   | 西川 遼  |

### ■ 配布資料

資料1-1：川崎市子ども・子育て会議計画推進部会 審議事項報告書

資料1-2：川崎市子ども・子育て会議教育・保育推進部会 審議事項報告書

資料 1 - 3 : 川崎市子ども・子育て会議子ども・子育て支援推進部会 審議  
事項報告書

資料 2 : こども未来局の組織改正について

資料 3 : 「子ども・若者の“声” 募集箱～君のつぶやきをきかせて～」につ  
いて

参考 1 : 令和 3 年度川崎市子ども・子育て会議 開催状況

参考 2 : 川崎市子ども・子育て会議 委員名簿

参考 3 : 川崎市子ども・子育て会議全体会議 行政出席者名簿

参考 4 : 川崎市子ども・子育て会議条例

## ■ 傍聴者

0 人

## 1 開会

- ・事務局あいさつ
- ・次第、資料、定足数（部会の成立）確認

## 2 議事

※摘録につき「である」調で記載しています。以下、ポイントを抜粋して記載。

### 議事 1 各部会審議事項報告について（報告事項）

#### 【計画推進部会】

○資料 1 - 1 をもとに村井部会長から報告。

⇒委員からの質問・意見等なし

#### 【教育・保育推進部会】

○資料 1 - 2 をもとに坪井委員から報告。

⇒委員からの質問・意見等なし

#### 【子ども・子育て支援推進部会】

○資料 1 - 3 をもとに石井部会長から報告。

⇒委員からの質問・意見等なし

### 議事 2 令和 5 年度こども未来局の組織改正について（報告事項）

○資料 2 をもとに事務局から説明。

< 質疑等 >

【奥村委員】 保育所等が直接携わる窓口はどこになるのか。また、請求業務的なものの窓口も教えていただきたい。

【事務局】 今まで認可保育所系については保育第 1 課が対応しており、業務はそのまま保育・幼児教育部に移るので、課は特に変更なし。運営費、措置費の方も保育第 1 課が窓口となる。

- 【奥村委員】 利用調整について、もう少し詳しく教えていただきたい。
- 【事務局】 保育・幼児教育部の一番上にある保育対策課で利用調整に係る事務を行っている。
- 【奥村委員】 各区に整備している保育・子育て総合支援センターについて、もう少し詳しく教えていただきたい。
- 【事務局】 今まで区役所に保育総合支援担当という部署があり、民間連携・民間支援・人材育成を担っていたが、その機能と、公立の保育園として各区にセンター園1か所、ブランチ園2か所あるが、センター園を保育・子育て総合支援センター内に建て替えることで、緊急性が高いお子さんを預かる一時保育事業の実施など機能強化を図り、保育・子育て総合支援センターという建物で一体的に保育関係の業務を担うことで、家庭に近いところで保育施策を進めていく。
- 【奥村委員】 民間指導など、区役所の会議室を使用して継続していくのか。
- 【事務局】 保育・子育て総合支援センターにも会議室があるので、そこで研修や会議を行ったり、まだ保育・子育て総合支援センターが建設されていないところについては、これまでどおり区役所の会議室を使うこともある。
- 【奥村委員】 園数の多い区は入り切れるのか心配である。
- 【事務局】 入りきれない場合は区の会議室も活用しながら対応していく。
- 【村井会長】 今後のこともあるので、平米数や収容人数がイメージできるようなものがあれば、委員へ情報共有してもらえると有難い。
- 【事務局】 後日、情報提供させていただく。
- 【一瀬委員】 児童福祉審議会でも児童虐待にも関わらせていただいているが、母子保健も一体化させた組織になったというのは非常に望ましいと感じている。一方で、障害のあるお子さんについての言及がほとんど無かったのが気になる場所である。児童虐待の被害者になるお子さんは、定期発達の子どもと比べると、7倍から14倍多いと言われている中、こども未来局と健康福祉局障害保健福祉部に分かれているが、少し障害のある子どもの施策がこども未来局の中でどういう扱いになっているか教えていただきたい。
- 【事務局】 障害児者の位置づけでいえば健康福祉局の所管になるが、保育所等や幼稚園でも障害児を受け入れている。障害児という名称は出てこないが、保育・子育て総合支援センターの方で、そういったところも連携を図りながらやっていく。明確に記載はしていないが、こども未来局としては、健康福祉局との連携の下、しっかりと取組を進めていくということで考えている。
- 【一瀬委員】 児童福祉の分野だと社会的擁護や虐待、障害児者は障害者施策がメインで施設や制度利用の対象となることが多く、狭間に落ちないよう、障害があろうがなかろうがこども未来局の対象である

- ということが位置付けられると、より明確になってよいと感じた。
- 【事務局】今後の課題として取り組むことが重要だと思うので、御意見として考えていきたい。
- 【村井会長】対象別福祉と考えると縦割りになりやすく、ニーズ別福祉でデザインするとつながってはくるが複雑化するという問題があって、落としどころが難しい案件だが、連携という言葉が、務レベルで機能することがこれからも必要になってくる。大変重要な庁内連携というところをさらにお願したい。
- 【青木委員】子どもが8か月のときに川崎市へ転入してきた。生まれてすぐのときは支援センターの情報など入ってきたが、転入した途端に情報が入ってこなくなった。保育園に入ってから、そこを通じていろいろな情報が入ってくるようになったが、未就園児の保護者の中には孤立している方もいると思われる。転入されてきた乳幼児から幼児の方々にも、何かあったらここに駆けつけてくれれば、いつでも相談に乗ります、こういう支援センターがありますという情報提供を大々的にしていただきたい。
- 【事務局】広報については取組を強化して実施しているつもりだが、届かないという御意見も多々いただいている。出生届の際に子育てに関する情報をセットでお渡ししているが、転入の際は住民登録までしか手続きをしないこともあるので、区の児童家庭課にある子育てガイドブックやメルマガ、アプリなどの情報をつなげられるよう取組を強化していきたい。
- 【村井会長】実体験に基づいた御意見で、こういう御意見が一番大事なところである。転入の際にお渡しする資料に入っていることが大事なのかもしれない。
- 【奥村委員】育休を長期で取得される方も増えてきているが、そういう方々にアプローチしていくのは区の児童家庭支援課という認識で良いか。
- 【事務局】お子様が生まれたときからの関わりとなると、区の地域支援課に保健師さんたちがいるので、赤ちゃん訪問から健診のところでアプローチすることになる。保育の専門性が求められる場合は、区の保育総合支援担当と連携して対応することも考えられる。
- 【奥村委員】国が言うかかりつけ相談機能的なものは全て地域みまもり支援センターの方で行っていただけるという認識で良いか。
- 【事務局】かかりつけ保育と言われる部分については、まだ検討段階である。
- 【奥村委員】先ほど資料1-2の中で、医療的ケア児の優先的な取扱いについて報告があったが、施設に対する説明会はなく、公立の保育所で受けていくという認識で良いか。
- 【事務局】今、保育・子育て総合支援センターで医ケア児の受け入れを始

めている。一概に全て保育所で受けるという形にはならないと思われるが、受けられるお子さんについては、今の段階ではまだ公立保育園でお受けするという形で考えている。

【奥村委員】民間の保育園にも相談が来ているという話を聞いたので、民間でも受けなければならないのかなと感じている。設備や人員確保など、いろいろと準備も必要になるので、事前に説明会の実施をお願いしたい。

【事務局】現在は保育・子育て総合支援センターで対応しており、先々ノウハウを民間保育所へということも考えられるが、今は公立で対応しているところである。そういう形で前に進むということになれば、当然説明は必要と認識している。

【河村委員】連携型の地域子育て支援センターを運営している。保育・子育て総合支援センターができて、その中に公営の地域子育て支援センターがあるという状態と認識しているが、自分たちの位置づけとして、今後は公営の地域子育て支援センターがそれ以外の地域子育て支援センターも含めてまとめていくようなイメージか。

【事務局】お見込みのとおり、保育・子育て総合支援センターを各区に1か所つくり、その中には公立の地域子育て支援センターが入ることになる。実際の地域子育て支援センターを所管する部署については、保育・子育て推進部の運営管理・子育て支援担当になる。今までは企画課が連絡調整、事業の実施を担っていたが、こちらに移って子育て施策を担っていくことになる。

【河村委員】先日、練馬区の子育てひろばを見学した際に、地域のグループの方たちが家賃を払って部屋を借りて、小さいながらもアットホームな支援をしていた。川崎市においても、地域の人たちの力をもう少し引き出せるような仕組みができると良いと感じた。あと、地域子育て支援センターでいろいろな相談を受けるが、障害が絡んできたときには、区の保健師につないだ方がいいのか、保育・子育て総合支援センターのソーシャルワーカーにつないだ方がいいのか、判断が難しいと感じながら対応している。

【事務局】地域子育て支援センターの所管を運営管理・子育て支援担当に移した理由として、保育・子育て推進部として、他に各区保育総合支援担当と保育・子育て総合支援センターがあるが、ここが連携して地域の子育て支援を実施していくという考え方からである。他にも地域の子育てグループにも御協力いただきながら子育て支援を実施していく。保育・子育て総合支援センターはアウトリーチしながら支援をしていくので、お子さんが何を必要としているかを理解し、必要な部署と連携を図りながら支援を行っていく。

【河村委員】連携型だと、週に3回、1回3時間だけの運営なので、一時預かりやふれあい子育てサポート事業のコーディネーターも難しいが、

地域で活動している子育て支援団体の中にはそこまでできるグループもたくさんあるのではと思っており、その辺りが上手く力を出せればと感じた。

【事務局】委員のお話しいただいた内容とずれた回答をしてしまったかもしれないが、そういったところを評価していこうという考えの下に、うまく連携させて、もう少し一歩踏み出して子育て支援を実施していこうという部署になっている。

【坪井委員】ある保育園の外部監査委員会に参加しているが、保育士さんがすぐに辞めてしまう話をよく聞く。子育て世帯へ特別給付金が支給される話もあるが、保育士の給料を上げるなど、現場を良くしてほしいと感じている。

【事務局】保育士の給料については、ここ何年も処遇改善施策をやっていて、川崎市では更に上乘せして対応している状況である。また、保育士が何か相談したいことがあれば、保育・子育て総合支援センターに連絡していただければ、お答えすることも可能と考えている。

【村井会長】保育・子育て総合支援センターの中に地域子育て支援センターを設置されるという話があったが、ここは基幹型の地域子育て支援センターというようなイメージを持っているか。

【事務局】基幹型と言われてしまうと難しいと考えている。今は横の連携を図っていくという段階と想着いて、子育て支援担当のところはどういう取組をやっていくか、今後検討していく。

【村井会長】支援者側の支援というものが必要になってくると思うので、横の横断調整を連携支援型のコーディネーターとして、ノウハウを共有する機会や人材育成を一貫してここを中心に研修等を企画することがあればやりやすいと思われる。本庁と保育・子育て総合支援センターの役割分担が見えてくると良い。組織は改編したが、事業数は変更がないと捉えてよいか。

【事務局】今回の組織改編に伴って事業数の変更することはない。

【村井会長】今後、仕組みがしっかりしてくると、横断的なものが一体化して一つの事業にしていくことはあり得るのか。

【事務局】今後はあるかもしれない。

【村井会長】組織改編に伴う計画書の大幅修正というのはあまり考えなくてよいか。

【事務局】お見込みのとおりである。

## 議事2 「子ども・若者の“声” 募集箱～君のつぶやきをきかせて～」について（報告事項）

○資料3をもとに事務局から説明。

<質疑等>

- 【村井会長】きちんと情報提供して初めて適正な施行や発想に至るので、「ただ、声をください」というと、いろんな意見が集まって焦点が絞れなかったり、子どもたちも正しい意見という発想ではなくて、何か本当ランダムな形になってしまう部分があるので、テーマを絞ったうえで幅広く意見をもらう。それと併せて自由に意見が言えるチャンネルがあれば、制度も資質も高まってくると思うので、ぜひ御検討いただきたい。
- 【事務局】開始するにあたり、まずはいろいろな意見をもらって、子ども会議につなげることを考えていたが、1、2か月経過すると投稿件数も落ち着いてきてしまったので、我々もテーマを決めた方がいいか悩んでいたところである。
- 【村井会長】いわゆる施策等をつくる過程や、それを実行する過程に子ども自身が参加する。まさに子ども会議がその一つだと思うが、案件に関する動画等を見てもらって、そこに子どもの意見をもらう等、彼らにたくさんの機会や気づきを提供できたらと思われる。
- 【長南委員】みんなの校庭プロジェクトというものがあると思うが、それはこの募集箱のようなことを聞いて始められたのか。
- 【事務局】各区で市長が出向いて、市民の皆様とお話をする車座会議の中で、そういったアイデアをいただいたところが発端である。
- 【長南委員】非常にいい取組だと思っている。大人にとって痛い意見がたくさん出てくると思うが、しっかり受け止めていただきたい。
- 【事務局】個別回答は行わないが、関係局につなげて方向性を確認し、市長コメントと合わせてホームページに掲載しているので、皆さんにも見ていただけると有難い。
- 【一瀬委員】気になる点として、インターネットで送信ができない子どもたちもいると思う。また、障害を持っている子どもなど、少数派の子どもたちの声をどのようにキャッチしていくのか。その辺りの仕組みもぜひ考えていただきたいと思った。
- 【事務局】市立の小・中学校では GIGA 端末を使用しており、障害をお持ちの方については、必要に応じて操作補助をしてもらう。この募集箱にも「GIGA 端末をもっと自由に使いたい」という声をいただいでいて、持ち帰りを許可するなどの活用を進めると教育委員会事務局から聞いている。この取組を始める際に、学校に周知したこともあり、かなり協力をいただいて件数が伸びたことがあった。引き続き教育委員会事務局と連携して実施していきたい。私立については GIGA 端末という形ではなく、御自身のスマホやパソコンになってしまうが、引き続き連携を図っていきたい。
- 【一瀬委員】学校でも声を出せるしくみにしていることは理解した。引き続き子どもの声を受け止めてほしい。

## ★任期満了に伴う委員挨拶

- 【青木委員】小学2年生の子どもがいるが、一時保育の話やGIGA端末の話等、身近な話をしている場に参加できてすごく勉強になった。一時保育の話で、川崎は3か月前でないと予約できないのは判断が難しいと感じ、現実的に悩んでいる方もいるというところを伝えたかったがなかなか発言できず、教えていただくだけになってしまったが、勉強になった。お世話になりました。
- 【石井委員】年度途中からの参加で、この間リモートで2回ほど会議を行わせていただいた。ありがとうございました。
- 【一瀬委員】川崎市は全国的に見ても先駆的な取組をたくさんしていただいて、委員の皆様とも前向きな議論ができて、私自身も大変勉強になった。どうもありがとうございました。
- 【稲富委員】地区によって当然いいところと悪いところっていうのはやっぱりあるわけだが、川崎は新しい取組にチャレンジしているなというのが感じ取れた。これをうまく回して、本当に取りこぼしなく多くの子どもたちが元気に育っていける町になればと思っている。2年間どうもありがとうございました。
- 【大野委員】会議に出ながら、現場の医療ケアの先生や保育園の先生と、私の場合は発達障害のお子さんになるが、保育のスキルについてこれからもアップしていきたいと思った。ありがとうございました。
- 【奥村委員】いつも役所の方には文句的なことばかりだったが、またこれからもよろしく願います。
- 【河村委員】お母さん支援という形で子育て支援センターに携わっていて、同時に児童発達支援の事業所にも関わっていて、障害の分野と子育て支援の分野が、本当になかなか一体にならないというジレンマを抱えながら今ここにいる。それが川崎の中で何とかいい形になっていけばいいなというふうに思っている。2年間ありがとうございました。
- 【今委員】私は多分最高齢で、かなり古くから子ども・子育てに関わっていたが、川崎の取組が本当に真面目だなと思うのと、職員の方のお力がかかなり大きいなと思い、その辺は大変感謝している。ただ、わくわくプラザやこども食堂等の現場の若い方と会う機会があるが、この子ども・子育て会議の存在が伝わっていない。現場には子どもの背景にある家庭のこと等、生々しい話がされているが、そういう声をどうやって取り込んでいくか。この辺りを考えなければいけないと思っている。いろいろとありがとうございました。
- 【鈴木委員】私たちの幼稚園は毎年園児数が減ってきてしまって厳しい状況にある。先ほど保育士の話もあり、職員の採用もなかなか難しいというような課題はたくさんあるが、幼児教育の場を守っていかなければならないという想いは持っているはずである。組織改編

の話聞いて、市役所の職員は働き過ぎではないかと感じたので、働き方改革を進めていただきたいと思った。少子化対策に向けて子どもを産みたくなるようなところも目指してほしい。お世話になりました。

- 【関委員】年度末をもって、当法人の活動を休止することになった。活動を始めた15年くらい前は、川崎市の中で子育て支援という言葉はあまり使われていなかったが、国の方でもこども家庭庁の創設など、子どもに視点が当たってきたので、私たちの役割は終わったと認識している。いろいろお世話になりました。
- 【関口委員】毎年多くの保育所が新設されて、その園医の推薦依頼が川崎市医師会に届くが、引き受けてくださらない先生が多く、推薦への対応に苦慮しているが、少子化の中で定員割れの保育所もたくさんあると伺っている。本日も話題に出た医療的ケア児の問題もまだまだこれからだと認識しているので、今後も課題の解決により多くをお願いしたい。
- 【長南委員】先ほど、練馬区の事例を伺ったが、自分の園でこれからもう少し未就学の保護者の方の気持ちに沿った医療というか、支援をもっとしていきたいと強く思ったので、いただいた情報を少しずつ広げていくということも、この会に出させていただいた意義のあることだと思っている。もう一つ、募集箱は小学4年生からということだが、私が幼児だったら、「先日、遠足に行ったとき、砂ぼこりの中でお弁当を食べたが、もっと緑があって芝生の上でお弁当を食べたい」と声を出したいと思った。小さな声が何か未来につながる大きな声になり、だんだんと実現していくと良いと感じた。ありがとうございました。
- 【坪井委員】川崎市のこういう会議には続けて出させていただいて、いろいろな角度で世の中は丁寧な行政機関の御尽力でできているんだなというのを改めて感じた。いろいろなところで還元できればいいなと思っている。ありがとうございました。
- 【豊島委員】子ども会議に出ている子は立派なことだけしか言わないが、募集箱はいい考えだなと思った。お世話になりました。
- 【中山委員】これからの世の中をつくっていくのは今の子どもたちで、その子どもたちがよりよく成長していくお手伝いをできるこの会議というのは、本当に意義深くて、すごく大事なことをいろいろやっていると思った。本当にいろいろと毎回勉強になり、非常に自分にとっていい経験になっている。来年度からは別の者が委員になるが、引き続き子ども・子育てにはいろいろ携わっていきたいと思っている。ありがとうございました。
- 【村井会長】説明を受けて、異議なしと言って終わってしまうような会議も世の中に多い中で、これだけ活発な意見を述べ合い、そして前向

きに、よりよい川崎を目指して、子どものためを目指して審議ができたことを心から感謝を申し上げたいと思う。本当にどうもありがとうございました。

### 3 閉会

- ・事務局あいさつ

以上